

心臓血管外科研修プログラム

プログラム指導者 金光 ひでお

1. プログラムの目的と特徴

心臓血管外科における術前評価、検査、基本的な手術を学び、周術期の全身管理をととして循環・呼吸管理を習得する。また、心臓血管外科の治療は循環器内科医、麻酔科医、看護師、臨床工学士、理学療法士、放射線科、薬剤師、栄養士など多職種でのチーム医療で成り立っている。チーム医療をととして医師として望ましい診療姿勢を身につける。

2. 指導体制

心臓血管外科専門医・修練指導医、日本外科学会指導医・専門医等の資格を有するスタッフを中心に指導する。研修医は、指導医と相談してそれまでの研修実績と研修期間に応じた到達目標を設定し、指導医とともに目標達成を目指す。プログラム統括指導医は心臓血管外科主任部長があたる。

3. 具体的な到達目標

① 心臓血管外科疾患の診断

- A) 病歴聴取と診療録への記載ができる。
- B) 理学所見の取り方を学び、所見を正しく記載できる。
- C) 画像診断(レントゲン、CT、血管造影、超音波検査、MRI、核医学など)の評価ができる。
- D) 生理学的検査(心電図、心エコー、頸動脈エコー、呼吸機能検査、脈波検査など)の評価ができる。

② 心臓血管外科疾患の治療

- A) 治療方針(ガイドライン)を理解し、説明ができる。
- B) 病歴、理学所見、検査結果、患者背景を総合的に検討して、治療方針を決めることができる。
- C) 循環・呼吸管理ができる。
 - スワングアンツ カテーテルを理解し治療に活かせる。
 - 人工呼吸器を理解し離脱ができる。
 - 血液ガスデータを理解し治療に活かせる。
- D) 基本的な手術を理解し説明ができる。
 - 冠動脈バイパス術
 - 大動脈弁置換術
 - 僧帽弁形成術
 - 僧帽弁置換術
 - 胸部大動脈瘤人工血管置換術
 - 腹部大動脈瘤人工血管置換術
 - スtentグラフト 治療
 - 末梢血管バイパス術
- E) 基本的な手技ができる。
 - 皮膚切開 縫合

- 血管止血 縫合
- 胸水穿刺
- CVラインの確保
- 橈骨動脈ラインの確保
- 静脈グラフト採取

F) 日々の診察、患者の訴え、検査所見から異常の早期発見・早期治療ができるようになる。
指導医と一緒に診察、所見の取り方、検査所見の判断の仕方、治療方針のたてかたを学ぶ。

③ 学術活動

研究会・学会にて症例報告ができる。

4.週間予定・教育活動

月曜日	8:30～	CCU 回診
	8:40～	手術・術後管理
火曜日	8:30～	CCU 回診・新入院患者プレゼンテーション
		回診/外来診療 ないし 内シャント手術
	18:00～19:00	循環器内科・心臓血管外科 抄読会
水曜日	8:30～	CCU 回診
	8:40～	手術・術後管理
木曜日	8:30～	CCU 回診・新入院患者プレゼンテーション
		回診/外来診療 ないし 内シャント手術
金曜日	8:30～	CCU 回診
	9:00～	スタッフ全員による week-end 患者サマリー(治療方針の確認)・回診

5. 評価方法

日々の診療姿勢、研修医による自己評価、受け持ち症例のレポート・カンファレンスでの発表などを参考にプログラム統括指導医の心臓血管外科主任部長により行われる。